本で問題の apical membrane が *indages indages* 型のものを具えた個体は未だ一度もみたことがなく、北海道産はすべて *indages indages* 型であつたことから、近く刊行される同博士のモノグラフには両亜種を区別して扱われる由である。なお Finnland 産 1 ♂ は apical

membrane の形態を正確に観察することは困難であつたがほぼ *indages indages* 型であることがうかがわれた。

本標本については今後さらに充分な検討を加えたいと考えている。最後に貴重な標本を貸与され御意見を示して頂いた阪口博士に深謝の意を表する。

本州未記録種ダイセツツガムシ八甲田山（青森県）に見出さる：大野善右衛門¹⁾ 町田昌昭²⁾ 吉村堅太郎²⁾ Ono, Z., Machida, M. & Yoshimura, K. : Finding at Mt. Hakkoda (Aomori-ken) of *Trombicula* (*Neotrombicula*) *microti* Ewing, 1928 ; a trombiculid mite hitherto unrecorded in Honshu, Japan

1962 年 8 月 16 日に 青森県酸カ湯東北大学八甲田山植物実験所附近で捕獲したトオホクヤチネズミ 1 頭から 5 匹の恙虫が見出された。これらはすべて本州未記録種ダイセツツガムシ *Trombicula* (*N*) *microti* であり他

種はふくまれていなかった。ここに本州の恙虫相にダイセツツガムシを追加する。今回の採集には他に、ホンダアカネズミ 1 頭、ヒメネズミ 28 頭及びヒメヒミズ 2 頭がえられたが、これらからは全く恙虫を発見することができなかった。なお北海道におけるダイセツツガムシの分布状況、宿主等については、大野(1960)：北海道産ナキウサギのツツガムシ及びノミについて。北海道立衛生研究所報, 11 : 64-70を御参照願いたい。

(北海道衛研¹⁾, 北大獣医²⁾)